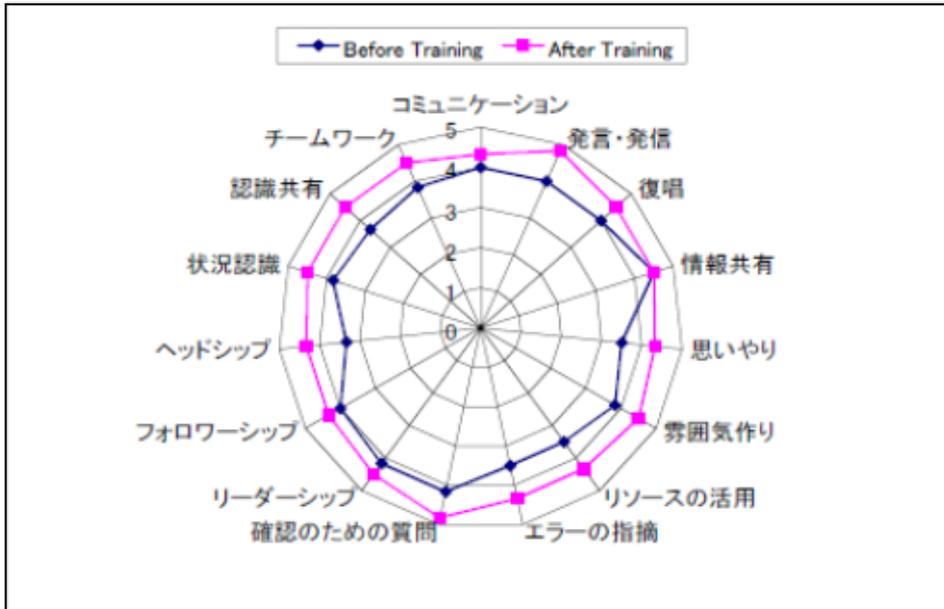


業 種	海運（旅客）
取組分野	教育・訓練
テ ー マ	操船シミュレーション及び安全に関する各種マネジメントシステムの導入
取組の狙い	入出港を対象とした操船シミュレーター訓練の導入及び各種マネジメントシステムの導入により、操船技術の向上及びヒューマンエラーの防止を図る。
具体的内容	<p>（株）ダイヤモンドフェリーにおいては、安全に対する取組の一環として、現在以下のような教育訓練を実施しています。</p> <p>1. 操船シミュレーター訓練の導入</p> <p>事故が発生する確率の高い入出港操船について、MOL マリンコンサルティング社のシミュレーター施設を利用し、各港の操船シナリオを作成して、厳しい気象条件等の下でシミュレーター訓練を行うことで操船技術の更なる向上や新人船長の操船技術の習熟強化を図っています。</p>  <p>2. Bridge Resource Management (BRM) の導入及び自主的な運航監査の実施</p> <p>ヒューマンエラーによる事故発生率の低減を図るため、Bridge Resource Management（操船時に構成されるチーム員間で情報を共有し、エラーチェーンを断ち切ることで事故の発生を防ぐ取組）を導入し、年に1回海技大学校航海科教官による乗船検証を受けています。取組開始から今年で7年目になりますが、更なる定着のため、教官が検証に使用する BRM チェックリストに従って安全統括管理者と運航管理者が運航監査を行っています。</p>  <p>3. Engine-room Team Management (ETM) 訓練の実施</p> <p>ETM 訓練は、機関室において構成されるチーム員の人間行動特性を踏まえて、エラーを最小限に留めチームパフォーマンス向上させることを目的とした、チームメンバーの意識改革を図る取組です。海技大学校機関科教官の協力を得て訓練を2009年から始めています。</p>  <p>4. 船内労働安全衛生マネジメントシステムの導入</p> <p>船員災害や事故の発生を未然に防ぐため、従来からヒヤリハット情報の収集・フィードバックを行っていますが、さらに2010年5月より“船内労働安全衛生マネジメントシステム”を安全管理マニュアル(任意 ISM)に追加</p>

	構築し、ヒヤリハット情報を基にリスクアセスメントを実施し、防止措置のフィードバックを行う等、安全衛生分野にも PDCA サイクルを導入して情報の更なる共有化を図っています
取組の効果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 操船シミュレーター訓練の受講者の多くが、今後の操船に役立つこと、また経験したい等の肯定的な評価を行っており、その有効性が伺えます。 2. BRM は海技大 学校教官から操舵号令の曖昧さ等が着実に改善しているとの検証結果報告を受けております。 3. ETM 訓練についても訓練前と訓練後のアンケート結果を比較するとチーム員としての意識改革がなされていることが報告されています。 4. 導入直後でまだ効果は見えませんが、今後の成果に期待しているところです。
事業者名	株式会社ダイヤモンドフェリー 船舶部 (連絡先 078-857-5852)

【受講者の意識改革結果】



作業の実施に関するアンケート集計結果



安全意識に関するアンケート集計結果

ETM アンケートの結果